

## 生物多様性及び生態系サービスの総合評価の概要

### 1. 検討会開催の背景

#### <国内外の生物多様性・生態系評価に関する動向>

- ・ 「生物多様性総合評価（JBO）」が平成 22 年 5 月に公表され、1950 年代後半から 2008 年頃までを評価期間として、日本全国の生物多様性の損失の要因と状態等が評価された。また、「日本の里山・里海評価」では、里山・里海の生態系サービスの傾向について分析。
- ・ JBO 実施後、2010 年の生物多様性条約 COP10 で 2020 年までの生物多様性の世界目標である愛知目標が採択され、その後作成された生物多様性国家戦略 2012-2020（以下、国家戦略という。）の点検に基づき、COP12 に向けて愛知目標達成状況の中間評価が実施された。
- ・ 同国家戦略において、「平成 27 年までに我が国の生物多様性の現状についての総合的な評価を行う」と記載。
- ・ 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム（IPBES）による生物多様性及び生態系サービスに関する地球規模アセスメントが 2016 年-2019 年で実施され、アジア太平洋地域アセスメントが 2015 年-2017 年で実施される予定。それに向け、各国における取組のインプットも求められる予定。

#### <JBO 以降の環境省予算による生物多様性・生態系評価の検討状況>

- ・ 2010 年以降、生態系サービスの定量評価、経済価値評価を進め、定量評価の指標検討、地図化の試行、湿地等の特定の生態系における経済価値評価の検討等を実施してきた。また、環境研究総合推進費で「アジア規模での生物多様性観測・評価・予測に関する総合研究（S9）」等が進められ、わが国における生物多様性及び生態系サービス評価に関する研究・調査が進められてきた。

- ・ わが国の生物多様性及び生態系サービスの価値や現状等を国民に分かりやすく伝え、生物多様性保全に係る各主体の取組を促進するとともに、政策決定を支える客観的情報を整理することが求められている。
- ・ JBO 後の生物多様性及び生態系サービスの国際的な動向や国内における知見の蓄積を踏まえ、生物多様性のみならず、生態系サービスの変化や傾向も含めて評価し直すことが求められている。

## 2. 平成 27 年度検討会の設置目的

生物多様性及び生態系サービスの価値や現状等を国民に分かりやすく伝え、生物多様性保全に係る各主体の取組を促進するとともに、政策決定を支える客観的情報を整理するための「生物多様性及び生態系サービスの総合評価」を実施するとともに、評価に必要な参考情報や指標等の整理、さらには課題の整理等を行う。

## 3. 総合評価の枠組及び実施方法

### <名称>

生物多様性及び生態系サービスの総合評価（Japan Biodiversity Outlook 2：JB02）

### <概念枠組>

IPBES の概念枠組を活用しつつ、JB0 の評価枠組や愛知目標との関係を統合

### <検討事項>

- ① 我が国の生物多様性及び生態系サービスの変化や傾向の評価  
（国外の生態系サービス（特に供給サービス）への依存も含む）
- ② それが人間の福利にもたらす効果の把握
- ③ 愛知目標の達成状況に関する科学的な参考情報の整理

### <評価期間>

評価実施：2014 年度及び 2015 年度の 2 年間（ただし 2014 年度はフィージビリティ調査）

評価対象：JB0 と同様に 1950 年台後半以降を対象期間に設定

うち、長期評価を全対象期間、中期評価を直近の 20 年間として評価を実施

### <検討体制>

JB0 と同様に専門家からなる独立した委員会とし、IPBES に関わる専門家や JBON 等の既存の専門家ネットワークと連携。

### <検討会委員>

齋藤 修	国連大学 IAS 学術研究官	（価値評価、将来予測）
白山 義久	海洋研究開発機構理事	（海洋生態）
中静 透	東北大学大学院生命科学研究科教授	（森林生態）※座長
中村 太士	北海道大学大学院農学研究院教授	（河川生態）
橋本 禅	京都大学大学院地球環境学堂准教授	（農村計画）
矢原 徹一	九州大学大学院理学研究院教授	（植物生態）
山形 与志樹	国立環境研究所主席研究員	（土地利用シナリオ）
山本 勝利	農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター	センター長（農地生態系）
吉田謙太郎	長崎大学教授	（環境経済）

#### 4. 検討会の開催計画

本検討会は、平成 27 年度のうちに 3 回開催する。

	議事 (予定)	配布資料 (予定)
第 1 回 10 月 8 日 16 時～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性及び生態系サービスの総合評価について</li> <li>・ 総合評価の実施における論点について</li> <li>・ 生態系サービス及び人間の福利に関する評価結果について</li> <li>・ 有識者に対するアンケート計画について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>資料 1</b> 生物多様性及び生態系サービスの総合評価の概要</li> <li>・ <b>資料 2</b> 生物多様性及び生態系サービスの総合評価に関する論点等</li> <li>・ <b>資料 3</b> 生態系サービス及び人間の福利に関する評価結果</li> <li>・ <b>資料 4</b> 専門家アンケートの実施方法について (案)</li> <li>・ <b>参考資料 1</b> 生物多様性国家戦略 2012-2020 関連指標群のリスト及び把握状況</li> <li>・ <b>参考資料 2</b> 生態系サービス及び人間の福利に関する指標</li> </ul>
第 2 回 12 月 11 日 13 時～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該分野の研究者に対するアンケートの結果について</li> <li>・ 生態系サービス及び人間の福利に関する評価結果の修正について</li> <li>・ 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書 (骨子) について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該分野の研究者に対するアンケート結果</li> <li>・ 評価結果の修正方針</li> <li>・ 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書 (骨子)</li> </ul>
第 3 回 2 月 5 日 10 時～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書 (素案) について</li> <li>・ 関係学会等における公表等について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書 (素案)</li> <li>・ 関係学会等における公表方針</li> </ul>

## 5. 評価にかかる主な作業計画

評価にかかる主な作業は以下の通りである。

### ① 評価作業の実施

生態系サービス及びそれがもたらす人間の福利に関する定量的及び経済的な評価は、検討会の開催回数に合わせ、3段階で評価を実施する。

#### A) 一次評価

生態系サービス及び人間の福利に関する各指標に対して評価作業を実施し、1指標あたりA4・2ページ程度の個票及び総括的な評価（30ページ程度）を作成する。（資料3参照）

#### B) 骨子作成

第1回検討会の指摘及び総括的な評価による研究者へのアンケートの結果を踏まえ、一次評価結果を修正し、「生物多様性及び生態系サービスの総合評価 報告書（骨子）」として整理する。

#### C) 素案作成

第2回検討会の指摘を踏まえ「生物多様性及び生態系サービスの総合評価 報告書（素案）」を作成する。報告書（素案）は第3回検討会に諮り、修正の後に報告書とする。

### ② 有識者へのヒアリング

総合評価における主な検討事項である、①生態系サービスの変化や傾向、②人間の福利にもたらす効果、③愛知目標の達成状況評価、④シナリオ検討に向けた課題を整理するため、有識者6名にヒアリングを行う。

### ③ 評価結果の説明等に資する国内事例の収集・整理

生物多様性、生態系サービスやそれに伴う人間の福利の変化について分析するとともに、総合評価の結果を分かりやすく説明するため、関連する国内事例を収集・整理する。

### ④ 学会や研究者グループに対するアンケートの実施

総合評価における指標の設定やその傾向、又は影響を与えている生物多様性の損失の要因の妥当性について専門的な観点から確認するため、関係学会を通して当該分野に携わる研究者200名程度にアンケートを送付・回収し、その結果を分析したうえで総合評価報告書に反映させる。

### ⑤ 今後の課題等の整理

総合評価報告書に記載するため、我が国における生物多様性及び生態系サービスの現状、傾向、今後の評価に向けた課題についてまとめる。

### ⑥ 学会向けプレゼンテーション資料の作成

関係学会等において公表することを目的としたプレゼンテーション資料及びIPBES総会等における報告のための英文サマリー（2ページ程度）を作成する。

時期	内容
7月	我が国で実施すべき総合評価に関する評価手法の整理 主要な生態系タイプごとの評価項目・指標の設定
8月	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           有識者ヒアリング            ・ 宮下教授（東大）            ・ 栗山教授（京大）            ・ 佐藤氏（内閣府）            ・ 小長谷氏（人間文化研究機構）         </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">           生物多様性、生態系サービス及びそれがもたらす人間の福利に関する定量的及び経済的な評価            （第一次評価の実施）         </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           ・ 各地域や研究における評価事例の収集整理         </div> </div>
9月	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 600px;">           ・ 研究者に対するアンケートの送付準備            ・ アンケートにも用いる評価結果の作成         </div>
10月	第1回検討会の開催（10月8日）
11月	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 50px;">           追加有識者ヒアリング            （第1回検討会の議論を受けて検討）         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           ・ 生物多様性、生態系サービス及びそれがもたらす人間の福利に関する定量的及び経済的な評価（第二次評価）            ・ 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書（骨子）の作成         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 50px;">           ・ 評価結果の修正            ・ アンケート送付             アンケートの回収             アンケートの結果整理、分析         </div> </div>
12月	第2回検討会の開催（12月11日）
1月	・ 生物多様性、生態系サービス及びそれがもたらす人間の福利に関する定量的及び経済的な評価（第三次評価） ・ 生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書（素案）の作成
2月	第3回検討会の開催（2月5日）
2月	・ 生物多様性及び生態系サービスに関する総合評価に関する報告書案の作成 ・ 現状、傾向、今後の評価に向けた課題の整理 ・ 学会向けプレゼンテーション資料の作成
3月	・ 学会等におけるプレゼンテーション